

## 放水路により約2.5m(推定値)水位が低下

### 狩野川放水路の効果

今回の洪水は、基準地点大仁において昭和33年9月の台風22号(狩野川台風)による洪水に次ぐ大規模なものであり、昭和40年の狩野川放水路完成後では最大の洪水でした。今回の洪水で狩野川放水路が無い場合の本川水位を推定した結果、徳倉観測所で**観測水位より約2.5m水位が高く、計画高水位を超えていた**と予想され、この場合には堤防の決壊や越水による狩野川本川の氾濫といった大災害の危険性があるものでした。

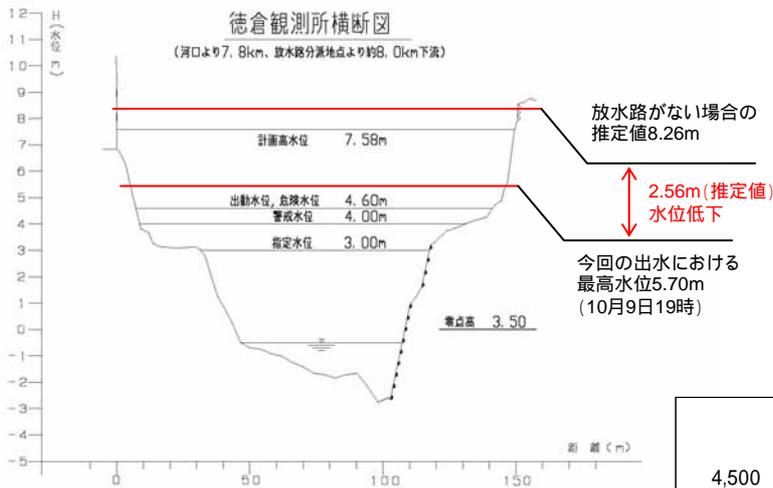


放水路放流状況(10月9日17時20分頃)



放水路放流状況(10月9日17時頃)

(放流開始:10月9日0時30分~放流終了:10月10日4時30分)



放水路の有無による水位比較

単位:m

	徳倉
放水路あり	5.70
放水路なし	8.26
水位差	2.56
計画高水位	7.58

#### ・放水路の効果

台風22号による出水により、狩野川放水路へ1,350m<sup>3</sup>/sec(速報値)を分派した。昭和40年の放水路完成後、今回の出水が最大の規模であり、放水路により下流域への洪水流量の負担を半減させている。

